

ローマ歴史地区、教皇領と サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂



基本データ

所在地

ローマ(イタリア)、ヴァチカン市国

登録区分 文化遺産

登録基準 (i), (ii), (iii), (iv), (vi)

登録年 1980年(1990年に拡張登録)

ローマの歴史

伝承によるとローマの町は、狼に育てられた双子の一人であるロムルスによって紀元前753年に建てられたといわれる。紀元前7世紀以降、ローマはエトルリア系の王の下で都市国家として発展するが、紀元前509年には王政が廃止され、共和政が樹立した。紀元前4世紀以降、イタリア南部のサムニテス、ヨーロッパ中央部のケルト人などと何度も戦争し、途中敗れるも最後には勝利し、それらの地域を占領した。そして紀元前272年にはギリシア植民地タレントウムを降伏させ、遂にイタリア半島統一を果たす。更に、紀元前146年にはカルタゴとのポエニ戦争に勝利し、また、3次にわたって戦ったマケドニア王国を属州としたことで、地中海全域の覇権を得ることとなった。

紀元前27年にはほとんどの職権を得たアウグストゥスにより、帝政が始まる。五賢帝の時代にはローマ帝国は最盛期を迎えた。しかし、395年に西ローマ帝国と東ローマ帝国に分かれ、476年にはゲルマン人の侵攻により西ローマ帝国は滅亡する。

ローマの歴史地区、教皇領と サンパオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂に属する世界遺産

I コロッセウム

ウェスパシアヌス帝の治世の下で計画され、建築が開始。ティトウス帝時代の80年に完成し、奉献式が行われた。楕円形で5万人を収容可能。入退場用に入口となるアーチには番号が振り分けられており、日除け用に天幕が張られていた。



闘技場ではムネラ(剣闘士の見世物)、ウェナティオネス(猛獣狩り)、ナウマキア(模擬海戦)が523年まで行われていた。9世紀以降は地震で被害を受けても修理されず、さらに石材の採取のために市民の手で破壊された。実際採掘の跡が多く存在し、今は鉄骨で補強されている。



Ⅱ パンテオン

アウグストゥス帝時代の紀元前27年もしくは紀元前25年にアグリッパが建築した神殿である。アグリッパのパンテオンは円堂でなく、神格化したカエサル・軍神マルス・女神ウェヌスなどが祀られた。80年の大火でアグリッパのパンテオンは焼失。ドミティアヌス帝が再建するも、110年の落雷で焼失した。



2017年8月23日筆者撮影



2017年8月23日
筆者撮影

後にハドリアヌス帝が再建したパンテオンは半円球のドームが付いており、ローマ帝国が一個の完結した世界である事を表す。天井に空いた穴「オクルス」から差し込む日差しは幻想的。

ローマの衰退後、他の古代公共施設が建築材料の搾取で壊されるが、パンテオンは608年に教会堂に改修されたことで守られた。だがその後、当時とは異なる姿の改装または一部が破壊されることがあった。しかし18世紀から保全の為の修復工事が現在に至るまで行われてきた。おかげで古代の状態が今でも完璧に残されている。

紹介した世界遺産以外にも、ローマ市内にはトレヴィの泉、真実の口など有名な世界遺産が多数存在している。

参考：
弓削達、赤地経夫 他(1987)『世界の大遺跡6 ローマ帝国の栄光』講談社；青柳正規(1990)『古代都市ローマ』中央公論美術出版。



2017年8月23日筆者撮影



Roughneck,
"La Bocca della Verità"

本の紹介



塩野七生『ローマ人の物語』全15巻 新潮社 1992-2006

イタリア在住の作家塩野七生による歴史小説。西ローマ帝国の創設から滅亡までを描いた。王や貴族だけでなく、庶民にまで焦点を当て、古代ローマ人はどのようなであったかを描いた作品。

1992年からほぼ毎年1巻ずつ発行され、15年目の2006年に15巻が発行され、完結した。

👉【配架場所】(本館1階)傘寿記念基金文庫

【請求記号】傘寿/2:5:1-15

自己紹介



氏名 鯨井悠司

所属 商学部2年生

世界遺産の魅力の1つは教科書やテレビで見えていた景色が目の前に広がっていることだと自分は思います。ぜひ世界遺産を訪れてみてはいかがでしょうか。